

野田 九条通信

2013年4月 88号

「野田・九条の会」事務局

TEL 7122-0502

野田九条の会ホームページ

<http://www17.ocn.ne.jp/~art.9/>

6月に毎週、憲法を考える催し。ピース・カフェのだ

「殺さない・殺されない」

野田・九条の会と市内3つの地域九条の会（川間九条の会、けやき九条の会、南地域九条の会）は、6月に毎週憲法や平和について考え、学ぶ催しを開きます。昨年12月に自民党が政権に返り咲き、憲法改訂を掲げている安倍総理ですが、参議院で議席を伸ばせば、憲法改訂に動くのではないかと心配されます。

野田・九条の会は、尖閣諸島や竹島の領有権をめぐる動きをその歴史を含め市民もしつかり知る必要があると考へて討論の場を設けます。名づけて「ピース・カフェのだ」「殺さない・殺されない」

東アジアの一員としての日本が近隣諸国と平和に付き合っていくためにどう考へ行動したらいいのか話し合う会にしたいと思います。

九条改憲に賛成の人も、反対の人も同じテーブルでコーヒードでも飲みながら話し合ってみませんか。

各地域九条の会も映画上映など計画をねっています。詳しくは次号で。

九条シール「殺さない・殺されない」

憲法を日常的に目にできるよう野田・九条の会オリジナルシールを作成しています。1枚200円で販売予定です。車や玄関などに貼ることができます。お楽しみに。

現在作成中です！



・6月2日（日）13時半～
高野邦夫さん（日本教育史学会・軍事費学会会員）を迎えお話しと懇談。憲法96条のことなど。。。

南コミセン第一集會室

（主催 南地域九条の会）

今後の予定（5月は各地で「憲法」を考える催し続々！）

- ☆松戸憲法記念日の集い 5月3日（金・祝）14時～松戸市民会館・ホール
法政大学教授・社会学部長 田中優子さん講演「ひろげよう！憲法九条 不戦の誓い」
- ☆かしわ市民憲法集会 5月5日（日・祝）14時～アミュゼ柏
東京新聞編集委員 半田滋さんの講演「戦争はいやだ！日本の安全保障を探る！」

4月の予定

- 4月5日～6日 野田・九条の会主催「福島被災地を訪ねる旅」 36名参加
- 4月13日（土）14時～ 野田・九条の会定例会 樺のホール4階研修室
- 4月14日（日）14時～ 映画「シェーナウの想い」上映とお話会
野田市南部梅郷公民館（主催グリーンカフェ・のだ）
- 4月19日（金）①10:30 ②14:00 ③18:30 4回上映 映画「福島 六ヶ所 未来への伝言」
松戸市民劇場（松戸駅西口5分）（主催 松戸上映実行委員会）
- 4月27日（土）14時～16時 講演会「原発を作ったから言えること」 野田総合福祉会館
講師 後藤政志さん 元原子力プラント設計技術者 現早稲田大、東京都市大学院、芝浦工大等講師

4・28「主権回復・国際社会復帰を記念する式典」に対する抗議決議

3月7日の衆議院予算委員会において、安倍晋三首相はサンフランシスコ講和条約が発効した4月28日を「主権回復の日」と位置づけ、政府主催の式典を開催する考えを表明し、3月12日の閣議で決定した。

日本は1951年9月8日にアメリカ合衆国を初めとする連合諸国との間でサンフランシスコ講和条約に調印し、翌年4月28日に発効した同条約第3条によって北緯29度以南の奄美・沖縄・小笠原は日本から分離され、米国の施政権下に置かれた。

安倍首相は国会でサンフランシスコ講和条約の発効で我が国の主権は完全に回復したと述べているが、その日をもって日本から切り離された沖縄はその主権下になかった。

ゆえに4月28日は、沖縄の人々にとって「屈辱の日」にほかならないのである。

沖縄は、去る大戦で本土防衛の捨て石とされ、二十数万人余のとうとい命が奪われた。

戦後も新たな米軍基地建設のため、銃剣とブルドーザーによる強制接収で米軍基地は拡大され、1972年の本土復帰後も米軍基地は存在し続けている。県民は今日なお、米軍基地から派生する騒音問題や米軍人・軍属等による事件・事故等により、日常的に苦しめられ、さらには県民総意の反対を押し切る形でオスプレイ配備、辺野古基地建設に向けた手続が進められている。

政府がまず行うべきことは、沖縄における米軍基地の差別的な過重負担を改めて国民に知らせ、その負担を解消することではないか。

沖縄が切り捨てられた「屈辱の日」に、「主権回復の日」としての政府式典を開催することは、沖縄県民の心を踏みにじり、2度目の沖縄切り捨てを行うものであり、到底許されるものではない。

よって、本県議会は、今回の政府の式典開催に反対し、強く抗議する。

上記のとおり決議する。

平成 25 年 3 月 29 日

沖 縄 県 議 会

内閣総理大臣 } あて
内閣官房長官 }

1952年4月28日に発効したサンフランシスコ講和条約により、日本が独立国となった日を「主権回復の日」として政府主催の記念式典を実施するという。ここでは講和についての多くの問題点に触れる余裕はないが、第二章、第三条によって沖縄の人々を切り捨てた事実を思いをいたすべき政治家としての当然の配慮を欠いた安倍首相の発表だった。

沖縄は今、オスプレイの配備撤回、普天間基地の閉鎖・撤去と県内移設断念を訴え続けている。だがそれが沖縄戦から今日に至る苦難と理不尽な処遇に比し、非常に控えめな要求であるにもかかわらず、わたしたち国民の感受性は鈍く、腰はひけたままだ。

3日には、アメリカ政府がオスプレイ12機の追加

配備を参院選投票日後速やかに行うと発表。先ごろ国内でオスプレイの飛行訓練が行われたが、自分の上空を飛ぶことへの抗議の声は上げたが、そのオスプレイが毎日沖縄の空を蹂躪している事実に言及し、沖縄の負担の重さに声をあげることはなかった。差別の構造につながっている意識の落差は深刻だ。

問題の解決は安保破棄、国外移転とするとしても、そこにかかっているのは、わたしたちの生活ではなく、沖縄の人々の生活なのだとすることを忘れてはならないし、公正さから考えて、普天間飛行場は「最低でも県外」という共通認識を持っていなければならないのではないかと考えているが、どうなのだろう。(富村)